



ジェイアール四国バス 新型コロナウイルスの影響を大きく受ける

ジェイアール四国バスの夏季賞与交渉は、6月2日に1回目の交渉を行った。今交渉は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により大幅な減収となるなど取り巻く状況がこれまでとは大きく異なることから、従来の交渉より丁寧な議論が必要であるとの認識のもと、申第21号「2020年度夏季賞与における会社の考え方」について申し入れ、現段階での会社の考え方が明らかにされたうえで、真摯に議論した。

交渉で組合は「会社を取り巻く環境は、極めて厳しい状況と理解するもの、組合員は日夜『安心・安全運行』に懸命に取り組んでおり、生活給としての一部である夏季賞与に対する組合員の強い期待に報いるため、そして新型コロナウイルス感染症の早期収束に向けて労使を挙げてこの難局を乗り越えるために誠意ある回答を求めると粘り強く訴え交渉を継続してきた。

6月19日の2回目の交渉において、会社より「新型コロナウイルス感染症の影響により会社を取り巻く状況は極めて厳しく、当面の会社存続と雇用の確保を考える中で、今期の賞与については、支給することが困難である」との考え方が示された。

これを受け組合は、会社を取り巻く状況が極めて厳しいことは理解するものの、今回の回答は、待命休職により月例賃金が減額となつている組合員の生活実態等を鑑みれば、非常に残念であり、重く受け止め、再度の交渉を申し入れた。

同日行った3回目の交渉においても、生活給の一部となつている夏季賞与に対する組合員の強い期待感と、雇

用確保を第一義に労使一体となり取り組むスタンスを繰り返して粘り強く訴えた。

交渉終了後も窓口を通じて粘り強く協議を継続してきたが、新型コロナウイルス感染症の影響により収入が激減し、さらに今後の見通しが立たないことなど現段階での会社の状況からすると、これ以上の前進は困難と判断し6月23日12時に妥結した。

(JR四国労組自動車支部ニュースNo. 15) 17参照

休業手当の見直しを図られる！

ジェイアール四国バスと4月28日に締結した休業に関する協定では、5月1日からの待命休職による平均賃金の60/100の休業補償を受けることとなつており、月例賃金の減額を余儀なくされた。会社を取り巻く経営環境が極めて厳しい状況にあることは認識するものの、組合員とその家族の生活を守るため月例賃金の減額改善に向け、申第22号「休業手当の見直しについて」を申し入れ協議を行った。

その結果、年令給・職能給・家族手当・住宅手当・デスク手当など、月例賃金に当り固定給に支給されている賃金の100/100に引き上げて支給することとし、適用期間を5月1日まで遡るとの回答があった。

組合はこの間、組合員の生活を守るべく待命休職における休業手当の見直しについて協議してきたが、今回の回答はこれまでとの主張を考慮した内容であり、前進が図れたと判断し6月30日に協定書を締結した。(JR四国労組自動車支部ニュースNo. 18、21参照)

JR連合 国土交通副大臣へ要請行動を展開

JR連合は6月29日(月)、新型コロナウイルス感染症拡大による影響と今後の環境変化を踏まえたJR産業の持続的成長につながる取り組みに対する支援を求め、御法川国土交通副大臣への要請行動を実施した。

JR連合は、JR連合の2議員とともに、JR連合荻山会長、中村交通政策部長らが出席し、JR産業が地域の社会的役割を果たしながら、働く仲間が安心して働き続けられる環境整備の必要性を訴えた。

荻山会長は「JRは最も深刻な影響を被っている産業のひとつ。JR連合の試算ではグループ全体ですでに1兆円ほどの収入が“蒸発”した」と新型コロナウイルス感染症の影響による減収の重大性に触れ、科学的な見地からの安心利用への情報発信と需要喚起への支援、②衛生対策や混雑緩和にむけた運賃・料金制度の見直しやオフピーク利用時のポイント還元への助成、③固定資産税等の減免措置の実施等を求め、「労使で意思疎通も図り検討を進めたい」と受け止めてもらいたい」と締めくくった。

また、利用の平準化を進める必要性を訴えつつ、「労働力不足への対応としても終電時間の繰り上げも有効であり、この機会に進めていくべき」と問題提起したほか、JR北海道やJR四国の経営の

要請を受け御法川副大臣は「鉄道の運行を継続してきたエッセンスに感謝している」と述べたうえで、固定資産税等の減免に対して「鉄道にとって大きな金額であることは承知している。次年度税制改正における議論が重要」との認識を示した。

JR連合 第29回定期大会開催

JR連合は6月16日(火)、東京都内「田町交通ビル」において、メインスローガンに「最大の経営危機を強固な団結と労使関係で克服し『JR連合ビジョン』の実践と産業・労働政策の推進を通じてJR産業の持続的発展と組合員・家族の幸せを実現しよう！」を掲げ、第29回定期大会を開催した。未だ収束を見通せない

新型コロナウイルス感染症の影響により書面による議決となったが、2020年度の運動方針をはじめとすすべての議案が全代議員の賛成により承認された。

定期大会の様子はWeb会議システム「Zoom(ズーム)」を活用してライブ配信され、JR四国労組選出の代議員・特別代議員・傍聴者も動画を視聴し定期大

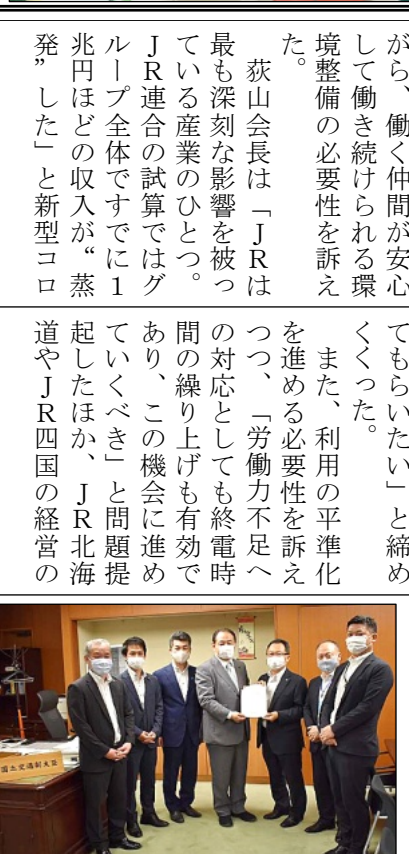
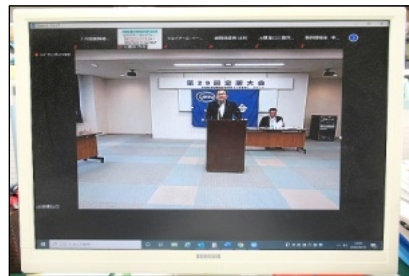
会に参画した。冒頭、JR連合を代表して挨拶に立った荻山会長は「コロナ禍に際して、ダメージからの早期回復を果たし、収束後の社会変化にも先見性を持って臨むとの見解を述べたうえで、『JR連合ビジョン』の『出会いふれあい 語り合い』の理念のもと、世話役活動とコミュニケーションを運動の基本に据えて、コロナ後の社会変化にも対応し、仲間にも寄り添い、助け合い、信頼される労働組合の強化と、

JR産業に働くすべての仲間のJR連合への総結集を訴え、ビジョンの実践を進めていく」と決意を語った。

経過報告及び運動方針については、事前に送付された議案書をもとに審議を行い、JR四国労組からも運動方針を補強する立場から、新型コロナウイルス感染症への対応、安全の確立に向けた取り組み、政策課題解決に向けた取り組み、組織の強化・拡大に向けた取り組み、労働条件改善に向けた

JR連合は6月29日(月)、新型コロナウイルス感染症拡大による影響と今後の環境変化を踏まえたJR産業の持続的成長につながる取り組みに対する支援を求め、御法川国土交通副大臣への要請行動を実施した。

JR連合は6月29日(月)、新型コロナウイルス感染症拡大による影響と今後の環境変化を踏まえたJR産業の持続的成長につながる取り組みに対する支援を求め、御法川国土交通副大臣への要請行動を実施した。



ユニオンスクール「ユニオンコース」開催

6月24日（水）13時30分より香川県高松市「サンポートホール高松63会議室」において、入社6年以上の青年女性組合員を対象としたユニオンスクール「ユニオンコース」を14名参加のもと開催した。

このスクールは「フレッシュマンコース」と同様、青年女性組合員がJR四国労組運動への理解を



深めることを目的として開催している。四国各地から集ま

ユニオンスクール「特設コース」開催

7月4日（土）13時30分より香川県宇多津町「ホテルアネシス瀬戸大橋」において、管理者組合員（現場長・助役・非現業部門の主席クラス等）を対象としたユニオンスクール「特設コース」（管理者セミナー）を四国各地から集まった15名の組合員参加のもと開催した。

労働組合の必要性や意義などについて講演があった。その後、富士社会教育センター武田講師を迎えた「管理者組合員に求められるもの」と題した特別講演では、人手不足による倒産や精神疾患による労働災害の

はじめに、大谷執行委員長から「管理者組合員に期待すること」と題し、JR四国労組を取り巻く環境や組織の現状について問題提起するとともに、これまでの経験を交えながら



た受講生は「労働組合の基本」「JR四国労組の取り組み」等についての講義に熱心に耳を傾け、基礎知識を学びレベルアップを図った。



増加、社会の変化に伴い発生している労働問題などの事例が報告され、民主的労働運動の重要性や、コミュニケーション能力の向上、タイムマネジメントを活用した仕事の進め方など、職場における管理者組合員の重要性等について講義を受け、参加者はスキルアップを図ることができた。

議員団会議総会開催

6月26日（金）16時より本部1階会議室において、JR四国労組議員団会議第29回総会が開催された。

冒頭、井上団長から挨拶を受けた後、議事では、この間の経過報告、会計報告、会計監査報告が確認されるとともに、今年度の取り組みについて説明があり、

活発な議論が展開された。JR四国労組は今後も議員団会議との連携を密にし、様々な政策課題の解決に向けて取り組んでいくこととする。なお、役員改選が行われ新たに山本団長が選出された。新役員体制
団 長 山本 悟史
(香川県議会)



副団長 橋本 敏男
(高知県議会)
幹事長 江渕土佐生
(土佐市議会)
幹事 井上 洋一
(砥部町議会)

乗務員共済運営委員会開催

7月1日（水）15時30分より本部1階会議室において、乗務員共済運営委員会が開催された。

冒頭、森安乗務員共済運営委員長から「JR四国労組の独自共済である乗務員共済の健全運営に向けた取り組みをお願いしたい」との挨拶



を受け議事に入った。議事では、決算報告、給付実績及び加入状況について確認されるとともに、今年度の財政について説明があり、承認された。

【乗務員共済とは】
列車乗務員、動力車乗務員、自動車乗務員及び業務用自動車運転者として従事する組合員・準組合員に加入資格があり、掛け金は月額100円です。共済制度の詳細や加入については、所属分会またはJR四国労組本部までお問い合わせください。

第11回本部執行委員会開催

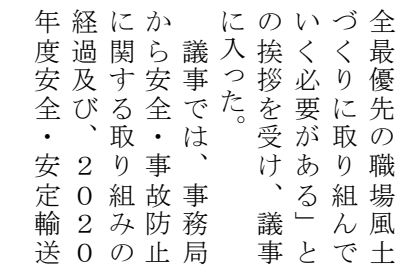
第11回執行委員会は、7月10日（金）第39回定期大会開催前の9時より「ホテルアネシス瀬戸大橋」で開催された。

経過報告と議事については次のとおり。
【経過報告】
(経営協議会)
・安全・事故防止、2020年度諸施策（JR四国）
・安全・事故防止（ジェイアール四国バス）
・「ドリーム高松号」運

安全推進委員会開催

7月1日（水）16時15分より本部1階会議室において、安全推進委員会が開催された。

冒頭、幸安全推進委員長から「安全・安定輸送の確立はすべてに優先する最重要課題であり、会社に対する安全へのチェック機能を強化し、安全最優先の職場風土づくりに取り組んでいく必要がある」との挨拶を受け、議事



に向けた取り組みについて報告と説明を受けた。その後、各部及び部会を代表して出席した各委員から、現場の実情や、新型コロナウイルスから、現場の実情や、感染拡大防止を含めた安全に関する報告や意見、質問等が出され、活発な議論が交わされた。



(政治)
・JR四国労組議員団会議第29回総会
(JR連合会)
・第29回定期大会
・自動車連絡会幹事会

【議事】
①2020年度夏季賞与の妥結承認について（ジェイアール四国バス）
②第39回定期大会について



空き缶のプルタブ回収にご協力をお願いします

JR四国労組では、労働組合の社会的な役割に鑑みボランティア活動を重要な活動のひとつに位置付けて取り組んでいます。青年女性会議が継続して開催している「鉄道版交通安全教室」の他にも、全組合員が気軽に取り組めるボランティア活動として、空き缶のプルタブ回収を実施しています。これまで回収したプルタブ

は115kgで、プルタブを800kg集めると車椅子1台と交換することができます。誰もが参加できる社会貢献活動として、空き缶のプルタブ回収にご協力をお願いします。

なお、集めていただいた空き缶のプルタブは、各支部青年女性会議またはJR四国労組本部までお送りください。